

“楽しかった バーベキュー会” 今年も浜辺で・・・

今年の夏の暑さは異常とも思える猛暑で、9月に入ってもこの状況が依然として続いている。そんな中、毎年恒例となったバーベキュー会が9月7日(土)に行われることになっていた。

昨年までは緑に囲まれた山あいの会場で行っていたが、今年は趣向を変えて海岸の浜辺で大海原を眺めながら行います・・・とのことだ。用宗港がその会場で、最寄りの用宗駅から歩いて6分位いで会場に到着できる交通便の良さであった。会場に着くと浜辺には既にテントが張っており、椅子やテーブルも準備されていた。それぞれが好き勝手にテーブルに着き暫く談笑となった。



この日の参加者は50名位いで、私共の会員メンバーが主で、あと新潟、石川、福岡県人会の代表の方数名と、それに小林事務局長の会社の社員や関係会社の人達とその家族、子供達も多く参加してくれました。その若い彼らが会場設営や飲物や食材などの全ての手配を、更に炭の火おこしから仕上げまでの仕事までも受け持ってくれた。

開始の11時になった頃、焼き上がった美味しそうな肉や野菜などが盛り付けられて各テーブルに、また飲み物も程よく冷えており早速開始となった。飲む、食べるには最高の場所で、海辺からの涼しい風がまた心地よい。子供達も普段の家庭での食事と全く違う雰囲気のためか、ふざけ合ったり大きな声で笑ったりで、賑やかな食事風景だ。どのテーブルも歓談が尽きない様子であった。若い社員とは1年ぶりの再会で良い機会なので彼らの会話の中へ。雑談から身近かな話し、なかにはいろいろと悩みも抱えているよう・・・だ。でも若い人達との話し合いも又実に楽しいものだ。何時しか時間も経過してきたが、ともあれ皆さん一緒に楽しく、賑やかなひと時を過ごされ、来年も又元気で再会を約束してお開きとなった。

今回の準備や設営から手配まで、更に後かたづけまでも引き受けてくれた諸氏に感謝申し上げます。以上

— 武長 記 —

宇宙へ飛び出せ！！“福井発の県民衛星”

繊維や眼鏡など福井県の地場産業を支えている高度なものづくりの技術。

県は、その技術を生かした新しい産業を創出する為、国が成長産業に位置付ける宇宙産業に着目し、県民衛星の開発に取り組み早期の完成を目指して目下取り組んでいる。県内企業の技術を結集した超小型人工衛星の打ち上げを目指す「県民衛星プロジェクト」。県は県内外の民間企業 11 社と 2016 年に組合を設立し、県工業技術センターを拠点に県民衛星の製造・試験を進めています。福井県は今や筑波、北九州と共に、超小型人工衛星開発の日本 3 大拠点になっています。

県民衛星は、2020 年度上半期に、ロシアのソユーズロケットに乗せてバイコヌール宇宙基地(カザフスタン共和国)から打ち上げられることが決定している為、製造・試験を進め、来年 3 月までの完成を目指しています。県民衛星は 1 立法メートル以下と超小型ながら、精度の高い画像を撮ることが出来、撮影した画像を活用するソフトウェアを開発中で、画像を地図に重ねたり、立体的に表示するシステムを製作し、防災や農林、土木、環境保全などの分野に役立てていきます。

県民衛星の打ち上げに向けた機運を盛り上げ、又子供達の宇宙への好奇心を育む為、県は福井市と共に宇宙分野に於ける国内最大規模の学会「宇宙技術及び科学の国際シンポジウム」を誘致し、6 月 15 日より 7 日間、開催しました。また、将来宇宙分野で活躍する人材を育成する為、県内の小中学生を国内外の宇宙関連施設に派遣することとし、今年 3 月に中学生 10 名が NASA(アメリカ航空宇宙局)などを見学したほか、小中学生 39 名が日本科学未来館(東京都)、JAXA 筑波宇宙センター(茨城県)を訪ね、その成果を発表した。そのなかにも将来人工衛星の開発に携わりたいなど・・・子供達の夢を話していました。

県では今後も宇宙ビジネスの拡大や人材育成を進め、宇宙産業の国内拠点として更なる発展を目指して行きます。



一乗谷、平泉寺が日本遺産に認定を

福井市の一乗谷朝倉氏遺跡や、勝山市の白山平泉寺を核に、両市の文化財について石をテーマにまとめた「400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井」(県、福井市、勝山市)が、今年5月に認定された。日本遺産は、地域の歴史的な魅力を伝えるものが認定される・・・として今回は戦国城下町の姿を伝える一乗谷朝倉氏遺跡の石垣や無数の礎石。中世に国内最大規模の宗教都市を形成した白山平泉寺に敷き詰められた石畳みや石垣。近世の福井城下で大量に使われた方谷石、勝山市街に断続的に続く石の壁「七里壁」など福井、勝山両市の歴史遺産を、石を切り口にアピールしている。県関係の認定は、「御食国若狭と鯖街道」、「北前船寄港地・船主集落」「日本六古窯」に次いで4件目。

また、「北前船寄港地・船主集落」について、敦賀市の構成文化財に「気比神宮大鳥居篇額」が認定された。以上



— 福井新聞より記事の一部を抜粋して —

福井が生んだ偉大な人

羽二重王国の土台を築く・・・細井 順子について

和服や礼服の裏地などに使われる絹織物の羽二重。福井県は出荷額全国1位の「王国」で、その発展を支えたのは、英国で生まれ明治初期に導入された手織り機「バツタン機」だった。それまでの手機(てばた)は、両手を使い横糸の入った「杼(ひ)」を投げ入れ、縦糸にくぐらせて織っていた。これに対し滑車を利用したバツタン機は、片手でひもを引くだけで杼が動き、もう片方の手で縦糸の位置が変えられ4倍の製織能力を誇った。

福井市の主婦細井順子は、この織り機の技術伝習生として1876(明治9)年、先進地の京都へ派遣された。そこで技術を習得し、翌年福井に戻り多くの女子工員を育てた。1887年に群馬県桐生から羽二重の製織技術が伝わり生産量が大幅に増大。1885年に全国10位だった福井の絹織物生産額は、1890年には3位に浮上し、1903年には遂に1位に躍り出た。細井が伝え広めたバツタン機の技術が下地となり、更に新しい製織技術が生まれ、羽二重が一気に発展していくことになった。



— 福井新聞の記事を抜粋して —

1. 今後の行事のお知らせ

- ① 10月20日（日）に貸切りバスを利用して横浜みなとみらい方面に出かけます。「静岡県内各県人会協議会」が主催する行事ですが、本会の会員の皆さん大勢の参加をお願いします。

コースは静岡駅前午前7:30出発し東名高速を利用して横浜港方面へ向かい中華街で昼食となりますが、みなとみらい各所（日本丸・ランドマークタワー・赤レンガ倉庫など）を見学し帰着は静岡駅に18:30頃の予定です。

費用は一人11,000円程度になります。

参加希望者は至急（10/10まで）役員に連絡してください。

（武長：090-3442-7782、小林：090-1741-8053、内田：090-4799-3266）

- ② 1月26日（日）に創立30周年記念の祝賀の式典を開催します。

案内状を同封してありますが、以下の要領で開催しますので大勢の皆さんの出席をお願いします。

1. 開催日 令和2年1月26日（日）
2. 時間 午前11時より午後2時30分ごろまで
3. 会場 中島屋グランドホテル
4. 会費 6,000円
5. 式典 記念式 午前11時開始
祝賀会 午前11時50分より

2. 事務局よりお知らせ

- ① 年会費納入者(前回の会報以降納入いただいた会員)

窪田 靖子	太田 太	深水 実	前田 賢一	川上 幸雄
尾武 英信	由比藤 やよい	茂木 光子	上田 憲	

（敬称は省略します。）

- ② 年会費未納者に早期の納入のお願い

年会費（3,000円）未納の方は、至急納入して頂きますよう宜しくお願い致します。

【振込先口座】

静岡銀行 東静岡支店 （普通） 口座番号 0080780
静岡福井県人会 会長 武長敏彦